

第1学年 公共×家庭基礎 学習指導案

1 単元名 日本にとってコメは「富」である ―コメで日本は元気になる！？―

2 単元目標

- (1) ・地域の創造、よりよい社会の構築に主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて、自分の考えを説明できる。
〔公共 思考・判断・表現〕
・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
〔公共 主体的に学習に取り組む態度〕
- (2) ・栄養の特徴や健康に配慮した食生活について理解するとともに、主体的に持続可能な食生活を営むために自己の食生活の計画に必要な技能を身に付けている。
〔家庭 知識・技能〕
・よりよい社会の構築に向けて、食の安全や食文化の継承を考慮した食生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。
〔家庭 主体的に学習に取り組む態度〕
- (3) ・発表で探究の目的や成果などをわかりやすく伝える技能を身につけ、発表を行うことができる。
〔教科横断 48の探究スキル28番〕

3 単元の評価規準

- (1) ・コメに関する必要な情報を収集し、地方自治・環境倫理・社会保障の見方・考え方につなげることができる。
〔公共 思考・判断・表現〕
・コメに関する必要な情報を活用し、社会的な課題について多面的・多角的に考察しようとしている。
〔公共 主体的に学習に取り組む態度〕
- (2) ・食糧としてのコメを理解できた。
〔家庭 知識・理解〕
・日本の食糧問題に関心を持ち、日常食の調理に積極的に参加しようとしている。
〔家庭 主体的に学習に取り組む態度〕
- (3) ・発表で探究の目的や成果などをわかりやすく伝える技能を身につけ、発表を行うことができる。
〔教科横断 48の探究スキル28番〕

4 単元について

(1) 教材観

「コメ」は、作物という機能を超え、日本全体を根底から支えてきた「富」である、

という視点を共通のテーマとして、教科「公民」と「家庭」による、教科横断の授業を展開し、各教科の学習内容の深化と定着を目指すとともに、探究力を身に付ける。

(2) 生徒観

本単元の学びを通して、探究力を身に付けることで、生きて働く知識・技能や思考力・判断力・表現力に加え、日本的な批判的思考などの資質・能力を備えたたたかな探究者の育成を目指す。また、共通のテーマに対して多様なものの見方や考え方があることを理解し受容できるしなやかさを備えた探究者の育成を目指す。

(3) 指導観

コメの総合的な機能（公共）、コメの食糧としての価値（家庭）を改めて捉え、今後の日本のコメ栽培について興味関心を抱かせると同時に、公共及び家庭基礎における発展的学習の際の基礎知識習得を目指す。そのために、アダム・スミスの『『富』と労働価値説』に基づき、「コメは富である」を共通のテーマとして、「調査」「考察」「発表」のプロセスによる、探究学習を行う。具体的には、「公共」の授業において、農林水産省ホームページにおけるコメの多面的機能、計 14 の観点から、今後の「公共」「家庭基礎」の授業展開を考慮し、学習内容を深化させる目的によって、①洪水防止機能、②生物多様性を保全する機能、③地域社会を振興する機能に着目し、それぞれ地方自治、環境倫理、社会保障の観点から公共との連関を図っていく。併せて、「家庭基礎」の授業においては、④コメの食糧としての価値という観点を設定する。この合計 4 つの観点に基づき、1 クラス 40 名の生徒が 5 人ずつ 8 班に分かれ、①～④の中から任意の 1 観点を選んで、「調査」を行う。その後「コメは富である」という共通のテーマのもと、「考察」を行い、班としての見解をまとめて、「発表」する。以上を、全体 3 時間で実施する。「調査」「考察」には、ワークシートを用いる。「発表」の際には、ボードにワークシートのポイントをまとめて行う。事後には、振り返りシートの記入とともに、自己評価表による評価と、発表を聞いた側からの他者評価も実施し、総合的に評価を行う。本時の振り返りの際は、「日本の富は GDP ではなくコメ！？」という観点から、アダム・スミスが、稲作を国家にとっての「富」として捉え、彼の資本主義の構想に一役買ったという事実について考え、コメが日本人にとって「富」であり、経済成長や GDP で表される指標とは異なる大切な価値であることを伝え、「私たちにとって本当の富とは」という問題提起を改めて生徒に与える。

※①～④の観点の詳細について

- ①コメと地方自治―田んぼの洪水防止機能が地域コミュニティを結びつける―（公共）
地域の「防災」に関して、田んぼの洪水防止機能が注目されている。田んぼは、大雨の時に一時的に貯留し、その後ゆっくりと川に流す。田んぼは畔に囲まれているため、水を貯めることができる。今回「田んぼダム」の取組を行っている自治体の事例の紹介を通して、新たな防災体制の整備について考える。

②コメと環境倫理—田んぼは生物多様性のベース基地である—（公共）

コメには生物多様性を保全する機能がある。コメ栽培が自然との調和の下で行われることにより、野生動物との共存関係が出来上がり、多様な生物の住処となる。今回、地域でまとまって冬に田んぼに水を張る「ふゆみずたんぼ」の実践事例の紹介を通して、生物多様性のベース基地としての田んぼの働きについて考える。

③コメと社会保障—コメは高齢者の医療費・介護費を安くする—（公共）

日本の社会保障は大きな課題に直面しているが、コメには後期高齢者医療費を抑制する効果があるというデータがある。後期高齢者の中の農業従事者と非農業従事者における、医療費・介護費について比較・考察を行うことで、コメが他の作物よりも日本人の健康に貢献し、コメには高齢者の機能を回復させる効果があるということについて考える。

④コメの食糧としての魅力（家庭基礎）

「コメ」を本授業で扱うにあたり、調理実習「おむすび」を行ない、握りながらコメの手に感じる触感、食べては舌で感じる食感を体験した。炊きたてご飯のおいしさに触れた感想が多く、コメは主食として他の炭水化物よりも味が優れ、そして副菜との相性も良いということを再確認した。本授業では、小麦から作られる「パン」との比較を行い、栄養の側面からコメの利点を捉え直す。また、コメの供給機能として食の安全も確認する。

5 単元の指導計画

	公共	家庭科	生徒の活動	評価規準等
導入 5分	・アダム・スミスの「富」「労働価値説」についての考え方を紹介する。 ・自分たちにとって本当の富とは何かという問題提起を行う。		・スミスの「富」「労働価値説」の考え方を理解する。	・「富」を「労働」という観点から理解しようとしている。
展開 ① 10分	① コメと地方自治（発表） ・田んぼの洪水防止機能が地域の防災的役割を果たし、さらには「農地・水・環境保全組織いなばエコフィールド協議会」等の例を用いて、田んぼにより地域に結びつきが生まれることを理解させ、発表させる。（2グループ）		・田んぼの洪水防止機能を理解し、さらには地域の新たな防災体制を整えるきっかけになっていることも理解し、発表する。 ・田んぼが地域のむすびつきを生み出すことを理解する。	・田んぼの洪水防止機能を理解している。 ・田んぼが地域コミュニティの形成にとって重要な要因となっていることを理解している。

展開 ② 10分	② コメと環境倫理（発表） ・「蕪栗沼ふゆみずたんぼ」、「つくば環境フォーラム」等の具体例を生徒に発表させる。（2グループ） ・田んぼが食物連鎖の基礎となっていることを理解させる。	・田んぼが「生物多様性」を支えや「食物連鎖」の場所として機能することを理解し、発表する。	・田んぼが生物多様性、食物連鎖の場所として機能していることを理解している。
展開 ③ 10分	③ コメと社会保障（発表） ・茨城県城里町のデータを提示し、生徒にどのようなことがわかるか資料の読み取りをさせる。 ・データの読み取りにより、コメが高齢者の医療費・介護費に与える影響を理解させ、発表させる。（2グループ）	・城里町のデータを「コメ」の観点から読み取る。その際、高齢者の医療費・介護費のデータも読み取り、発表する。	・城里町のデータを社会的な見方に基づき読み取ろうとしている。 ・データの読み取りの際に、協働的な活動を行うことができる。
展開 ④ 10分	④ コメの食糧としての魅力（発表） ・前時「おむすび実習」のコメの特徴（調理法、味）、栄養的特徴を発表させる。 ・コメは米粉にして自給率の低い小麦の代替品にもなり、日本の食糧問題の要であることを理解させ、発表させる。（2グループ）	・コメの栄養成分について理解し、発表する。 ・コメの開発方法を工夫することで小麦の代替品となり、さらには美味しさの面でギネス記録を保持している米も日本にあることを理解する。	・コメにまつわるデータを適切に読み取り、理解している。 ・コメに関する新たな知見を得て、自己の食生活に生かそうとしている。
振り返り ⑤ 10分	・授業を振り返り、コメが機能的にも（公共）、食糧からも（家庭）日本人にとって貴重な作物であることを理解させる。 ・アダム・スミスの「労働価値説」を提示し、コメは日本人にとって何よりも「富」であることを伝えることにより、公共の経済分野を学ぶ際のきっかけを設定する。	・振り返りシートを用いて、コメの機能的・食の安全性の面から日本人にとって有益な作物であることを理解する。 ・自己評価と他のグループの評価を行う。	・コメのもつ機能、安全性等について理解し、コメが日本人にとって重要な作物であることを理解している。 ・国家の富について、多面的・多角的に考えることができる。